

第17回 行政改革推進会議 議事要旨

【開催日時】

平成27年6月18日（木）17:20～18:00

【場所】

官邸4階大会議室

【出席者】

議長	安倍 晋三	内閣総理大臣
議長代理	麻生 太郎	副総理
副議長	有村 治子	行政改革担当大臣
構成員	高市 早苗	総務大臣（代理 武藤 容治 総務大臣政務官）
	秋池 玲子	ボストンコンサルティンググループシニア・パートナー& マネージング・ディレクター
	大塚 陸毅	東日本旅客鉄道株式会社相談役
	河村 小百合	株式会社日本総合研究所調査部上席主任研究員
	小林 栄三	伊藤忠商事株式会社取締役会長
	土居 丈朗	慶應義塾大学経済学部教授
	畠中 誠二郎	元中央大学教授
	森田 朗	国立社会保障・人口問題研究所長
	渡 文明	J×ホールディングス株式会社名誉顧問
関係大臣	塩崎 恭久	厚生労働大臣

【議事次第】

1 開会

2 議事

(1) 「重要課題検証」について

- ・ 歳出改革ワーキンググループ重要課題検証サブ・グループ中間取りまとめ
- ・ 重要課題検証の対象テーマ・事業の選定

(2) 各府省における歳出改革の優良事例について

- ・ 行政事業レビューに係る優良事業改善の事例の選定
- ・ 調達改善に係る優良取組事例の選定

(3) 平成 26 年「秋のレビュー」等のフォローアップについて

3 議長挨拶

4 閉会

【配布資料】

資料 1－1 重要課題検証「中間取りまとめ」(概要)

～医薬品に係る国民負担の軽減(後発医薬品の使用促進等)～

資料 1－2 重要課題検証：医薬品に係る国民負担の軽減(後発医薬品の使用促進等)
中間取りまとめ

資料 2 重要課題検証の対象事業の選定について

資料 3－1 平成 26 年度行政事業レビューに係る優良事業改善事例の選定について(案)

資料 3－2 平成 26 年度調達改善に係る優良取組事例の選定について(案)

資料 4－1 平成 26 年における「秋のレビュー」等の指摘事項に対する各府省の対応状況(概要)

資料 4－2 平成 26 年における「秋のレビュー」等の指摘事項に対する各府省の対応状況
(平成 27 年 6 月 18 日時点)

資料 5 後発薬品促進にかかる構造的問題について(田中議員提出資料)

参考資料 1 平成 27 年行政事業レビュー公開プロセスの日程、対象事業及び外部有識者
(行政改革推進本部事務局選定)

参考資料 2 行政事業レビューにおける副大臣・政務官の役割の強化

参考資料 3 これでわかる！行政事業レビュー(平成 26 年度版)

～PDCAで国の「仕事」を改善する～

【議事の経過】

- 有村行政改革担当大臣の司会により、議事が進行した。はじめに、資料1-1及び資料1-2に沿って、医薬品に係る国民負担の軽減（後発医薬品の使用促進等）に関する「中間取りまとめ」について、また、資料2に沿って、重要課題検証で取り上げるテーマ・事業について、歳出改革ワーキンググループの座長である土居議員より報告があった。
- 次に、資料3-1に沿って、行政事業レビューに係る優良事業改善の事例の選定について、歳出改革ワーキンググループ行政事業レビュー担当を代表して河村議員より説明があった。続いて、資料3-2に沿って、調達改善に係る優良取組事例の選定について、歳出改革ワーキンググループ調達改善担当を代表して秋池議員より説明があった。
- 次に、資料4-1及び資料4-2に沿って、平成26年「秋のレビュー」等での指摘事項に対する各府省の対応状況について、有村行政改革担当大臣より報告があった。
- 続いて、医薬品に係る国民負担の軽減（後発医薬品の使用促進等）に関する「中間取りまとめ」について、塩崎厚生労働大臣より発言があった。その後、議論に移った。

（各議員の主な発言）

- ・ かかりつけの医者があるのと同じように、かかりつけの薬剤師、調剤師を推奨してほしい。
- ・ 後発医薬品の薬価の設定の仕組みを検討しなければならないのではないかと。後発医薬品の薬価は、卸価格を参考にして2年に1度見直されるが、卸価格が高止まりしているため、なかなか下がらない。例えば、国際価格などの手法を入れて、内外格差の解消を検討するようなこともしてはどうか。
- ・ 優良事例がピックアップできたことは非常にいいが、まだまだパンチ不足。ぜひこれを広め、進化させて、絶えず改善するという思いを、全省に周知いただきたい。あわせて、良い取組がなされたら、必ずそれを評価するということが大事である。
- ・ 重要課題検証は非常に大事であり、ぜひ着実に進めていただきたい。後発医薬品の使用割合を加速化させていくことは、極めて重要である。
- ・ 後発医薬品の使用促進は、増大する医療費の一つの要素に過ぎないことから、より広く医療費の問題を取り上げていくことが重要。医療費の問題は、さまざまな場で議論されているものを含めて、建設的な検討を進めていくことが重要である。

- ・ 医療費の削減は非常に重要だが、患者の命に関わることであり、そこに影響が出ないように配慮していただきたい。
 - ・ 費用対効果の評価制度の導入が必要である。保険で出すに値するだけの効果があるかどうか、効果があるとしたら、保険で出し得る価格はどうかということの評価する方法を、中医協において制度的に検討しているところであり、それをサポートしていただきたい。
 - ・ 医薬品産業も医療費も、基本的なところでデータがない。マイナンバー制度と並ぶ形で、医療のデータを患者ごとに取り、それに基づいて、客観的・科学的に決めていく方法をぜひ導入していただきたい。
 - ・ 今回の中間取りまとめでは、先発医薬品メーカーのイノベーションをいかにうまく図るかということと、後発医薬品で国民負担をいかに軽減するかということとを、同時に達成していくことが強く意識されたところであり、ぜひ進めていただきたい。
 - ・ 参考資料3（「これでわかる！行政事業レビュー（平成26年度版）」）について、できるだけ、わかりやすさや見やすさを意識したものにしていけることが大事であり、引き続き検討してほしい。
- 議論後、資料2及び資料3について、行政改革推進会議として了承された。あわせて、有村行政改革担当大臣より、重要課題検証については、「中間取りまとめ」や本日の審議を基に、関係府省において、具体的対応を積極的に進めていただくとともに、さらに検討を要する課題については、重要課題検証サブ・グループにおいて、関係府省とともに、引き続き検討を深めていただきたいとの発言があった。
- 最後に、安倍内閣総理大臣より、以下のとおり発言があった。

（安倍内閣総理大臣）

- ・ 安倍内閣は、今年度、政策・制度の実効性の検証を行うために「重要課題検証」を新たに導入し、「後発医薬品の使用促進」について、ワーキンググループにおける検討を進めてきたところ。
- ・ 本日、報告のあった「中間取りまとめ」では、使用促進とあわせ、「後発医薬品に対する安心・信頼の向上」や「医薬品産業の創薬力・競争力の強化」を図るといった考え方が示された。引き続き、関係府省とともに、必要な方策の検討を深めていただきたい。
- ・ このほか、本日の会議では、行政事業や調達の優良改善事例も紹介いただいた。良いところは良いと明確にして、優良事例の各府省への横展開を一層促してまいりたい。

- ・ 今後も、政府全体を俯瞰しながら、「現場の声」を丁寧に取り、真に国民の利益となる行政改革に強力に取り組んでいくので、議員の皆様の御協力をよろしくお願いする。

(以上)

(文責：行政改革推進本部事務局 速報のため事後修正の可能性あり)